

~ すべての子どもたちが自分らしい未来を思い描ける社会を目指して~

「認定NPO法人力タリバ」Interview

2024年7月号

〒162-0832 東部新宿底常時12 レベッカビルユF 「一限会社 ベレ出版

TEL: 03-5225-4790 FAX: 03-5225-4795

本紙2024年2月号にて、「大人のための学びなおしフェア」をご紹介・ご提案させていただきました。その際に、フェアの売上の一部を、学びの機会に恵まれない子どもたちに寄付するとご報告したところ、多くの書店様にご賛同いただき、また担当者様からたくさんの温かい応援コメントを寄せていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。今回のベレベレ通信では、寄付先としてご協力いただく「認定NPO法人カタリバ」さんのインタビュー企画をお届けします。設立時のエピソードや、集まった寄付金の活用例、そして「学び」に対する思いまで、ご担当の野口さんにうかがいました。



設立のきっかけと活動の幅を広げる大きな転機

代表の今村**1は当時、大学進学を機に上京してきたのですが、キャンパスの自由で多様性に富んだ雰囲気に「こんな世界もあるんだ!」と新鮮な驚きを感じたそうです。しかし、そんなキラキラした大学生活の合間に帰省して参加した成人式で、同じ大学生の友人たちが「大学ってつまらないよね」と言っているのを耳にし、「同じ学校で育ったはずなのに、その後出会う人や学ぶ場所によって、こうまで価値観や気持ちに差が出てしまうのか」と違和感を覚え、教育環境について考えるようになりました。その後、同じような問題意識を持っていた共同創業者の三箇山**2と出会い、お互いの考えを共有する中で、「学校以外に、子どもたちが将来を考えることができる教育の場を作りたい」という思いを持つに至りました。そんな中で二人が設立したのがカタリバです。

当初の主な活動は、高校へ出張授業に赴き、体育館などで車座になって高校生たちと対話する「カタリ場」というプログラムを実施することでした。親や先生との「タテの関係」でも、友達との「ヨコの関係」でもない、手を伸ばせば届きそうな憧れの先輩や、自分よりちょっとだけ人生経験が豊富でアドバイスをくれる年長者との「ナナメの関係」から子どもたちにアプローチすることで、未来には様々な可能性があるということを子どもたちに直接伝えるという活動です。

多くの学校のご協力のおかげで、「カタリ場」の活動は少しずつ広がっていったのですが、現在のように年間10万人以上の子どもたちを支援できるような団体になったひとつの大きな転機は、2011年の東日本大震災でした。震災後に被災地のために募金活動で集めた寄付金を、自分たちの思いが伝わる団体にきちんと届けるため、今村が直接東北に足を運び、寄付金をお預けする団体を探しながら現地の状況を見て回ったのですが、彼女がそこで目にしたのは、自分の悲

しみをこらえ周囲を気遣う子どもたちの姿でした。避難所の中には、家族や友達を失ってしまった子どもたちが多くいましたが、大人たちは日々生きていくことに一生懸命で、子どもたちのケアはどうしても後回しになってしまうという実情があったのです。状況が状況ですから、子どもたちも大きな悲しみを抱えながらも、それを出せないまま我慢して自分の中に閉じ込めてしまう…そういう子どもたちと実際に出会った今村は「このような状況下で、子どもたちのケアを保護者や学校の先生だけが担うには負担が大きすぎる」「東北で子どもたちが安心できる居場所を作るべきだ」と考え、急遽現地に留まって子どもたちの居場所づくりを始めました。この経験が団体としてのその後の活動に大きく影響しています。

※1 カタリバ代表理事の今村久美さん

※2 カタリバ共同創業者の三箇山優花さん

profile

野口雄志さん

1986年神奈川県藤沢市生まれ。

大学卒業後は都市銀行へ就職。約12年勤務し、不動産融資や相続・ 清言業務を知当。

2022年よりカタリバへ転職。現在は企業や個人の寄付者様からのご寄付を受け取り、遺贈寄付関連の寄付者様の窓口を担当している。2児の父親。

認定 NPO 法人力タリバ(認定特定非営利活動法人カタリバ)

全国で子どもの教育支援活動を行う、東京都の認証を受けた認定 NPO法人。

貧困・災害・不登校など、どんな環境に生まれ育ったとしても日本のすべての子どもたちが自らの意志で未来を切り拓くことができる社会を目指して、2001年から活動を行っている。全国6か所の施設とオンラインで、年間約10万人の子どもたちに安心できる居場所や食事、多様な学びの機会を届けている。

寄付金の活用例

現在15の事業があり、寄付の活用は多岐にわたりますが、ここでは3つ具体例をご紹介させていただきます。1

子どもたちが通う「実拠点」の運営費

何らかの理由で困難を抱えている子どもたちに向けた 施設での食事費用や学習支援費、その他さまざまな体 験を提供するための費用として使わせていただいていま す。学習支援費の中には、教材費以外に、英検などの 資格試験の受験費用も含まれています。たとえば、「英 語が好きになったので頑張って英検を受けてみたい」 という子どもたちのチャレンジを応援するためにお預か りした寄付金を使っています。

オンライン支援の費用

実拠点以外で繋がっている全国の子どもたちに向けたオンライン支援のための費用です。コロナ禍で学校が一斉休校になってオンライン授業に切り替わったことがありましたが、経済的に困難を抱えているご家庭にはそもそもPCがなかったり、Wi-Fi環境が整っていなかったりします。そういったご家庭に設備を無料で貸与し、子どもたちの学びや保護者への伴走を行っています。また、抱える課題の緊急性や困難さの程度によっては、専門資格を持ったカウンセラーや臨床心理士との面談も実施しています。

災害支援費

災害によって夢を諦める子どもたちを生まないために、災害 の規模や状況によって必要な支援を行なうための費用です。今 年の1月に地震があった能登半島には、多い時には10ヶ所ほ ど、子どもたちの居場所を作ったのですが、そこの運営費にも ご寄付を使わせていただいています。また、これまでのカタリ バが災害支援として行っていなかった新たな試みとして、「マイ ボックスプロジェクト」というものを実施しました。これは、避 難所生活をしている子どもたちにヒアリングをして、ひとりひとり に合った物資をカスタマイズして届けるというものです。先日、 あるキャラクターのノートが届いたというお子さんから、「自分の 好きなキャラクターで嬉しかった!使い終わっても一牛大事にす るね!」というメッセージをいただきました。起きてしまった出来 事を思うと心が痛みますが、その中でこういう声をいただくと励 みになりますし、あらためてこれからもしつかり支援していこうと いう気持ちになります。このプロジェクトで送る物資も皆さまか らのご寄付で成り立っている物が多く、とてもありがたく感じて います。また、今回の地震によって子どもたちがこれまで頑張っ て目指してきた進路をあきらめないためにも、受験を控えた中 学3年生と高校3年生(浪人生も含む)の生徒313名に対し て、受験にかかる費用を奨学金として給付しました。

子どもたちに多様な学びの機会を提供する カタリバが考える「学び」とは

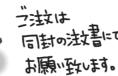
私どもが考える「学び」というのは、〇×で点数をつけたり、順位をつける勉強のことだけを指すのではありません。目の前に困難が立ちはだかった時に、自分の力で乗り越えていく、そして主体的に解決する力を養うために必要なのが「学び」だと考えています。ですので「高校を卒業したらおしまい」「大学を出たから終わり」ということではなく、一生続いてい

くものが「学び」だという認識です。また、何かを学ぶ際に、すべて自分だけで完結するのではなく、「人の思いに触れながら学んでいく」ことも大切だと思っています。子どもたちが学校の授業や友達との会話、前述した「ナナメの関係」、それ以外にも多様な人達と出会い、さまざまな人の思いと関わりながら学び続けてほしいなと思います。



私たちが大切にしている「人の思いに触れながら学ぶ」ことを実践するために、本というのはとても適していると思います。書店に並べられている本たちには、著者の方だけでなく、それを選書したスタッフの皆さんの「思い」も乗っていると感じるからです。カタリバと関わった子どもたちが何か新しいことにチャレンジする時に、そんな本たちに背中を押してもらえたら素敵だと思いますし、書店の皆さまにはそういう出合いの場を提供し続けていただきたいと思います。

8月新刊インフォメーション





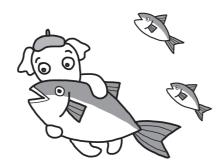
くらべてわかる 間違えやすい英語表現 使い分けガイド /

上田秀樹 A5 並製 本体 1.800 円 978-4-86064-771-1

「どっちだっけ・・・?」使う時に誰もが必ず迷う英語表現を1冊でスッキリ解決。 look over? look up? be known for? be known to?.

no better than? not better than?

理解していたつもりでもつい間違えてしまう・迷ってしまう英語表現を、2つないし3つをく らべながら分かりやすく解説します。似ていても意味が全くことなる場合もあれば、微妙 なニュアンスの違いや後ろに続く単語性質の違いによって使い分けが必要なものを本書 にぎゅっとまとめました。1項目1ページ構成なので、混同しやすい表現も比較しやすくスッ キリ分かる!本書1冊で、英語を使う時の「迷い」が激減するはず。



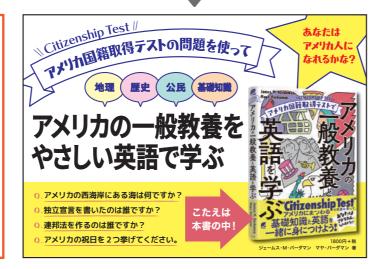


切り取ってPOPとしてお使いください

意味がわかる線形代数

数式だけでなく、できる限 り言葉で説明。図像を豊富 に用いてイメージしやすい。

『まずはこの一冊から意味がわかる線形代数』 石井俊全



本を読んでいますか? 買っていますか?

「本って高いよね」。ある親戚との会話の中で聞こえてきた一言です。私たち本を作る立場からすると、「そんなことな い」と思うのですが、頻繁に本を買う人でない限り、案外、日本人の多くはそう感じているのかもしれません。実際、 自分の友人や家族など自分の周りを見渡してみると、日常的に本を買っている人は極めてまれです。そもそもあまり読ん でいません。読んでいる人でも図書館で借りている人が大半で、買うにしてもメルカリです。

十数年前に他社のあるベテランの編集者に「本はどこで買っているんですか?」と聞いたところ、「本なんて買わないよ」 という答えが返ってきてビックリしたことがあります。翻って今現在、書店・取次・出版社に勤めている人たちもどうでしょ うか。多くの業界人は日常的に本を読んで、買っているのでしょうか。出版業界の売上減を嘆いている人は、まずは自 社の社員がどれだけ本を読んでいるのか買っているのか調べてみたらいいと思います。通勤電車でも家でも、本を読む よりスマホをいじっている時間のほうが長い社員が多いかもしれません。

この業界では「人はふつう本を読むものだ」ということを前提に、本の商売が語られることが多かったように思います。 しかし現在、「読まない人」はとても多いですし、読む人でも買ってくれるとは限りません。本が売れなくなったのはな ぜか。その答えは、業界人自身の実際の消費行動や購買行動を思い返してみれば、見えてくるような気がしています。

ベレ出版 25 周年!

「大人のための学びなおしフェア」、書店レポート

「人生 100 年時代 | とも言われる昨今、「学びなおし」の重要性はますます高まってきていると 感じます。「学ぶことの楽しさや、新たな発見・刺激を、書店を訪れるお客様へお届けしたい」と いう私たちの思いにご賛同いただいた書店様の数は、すでに80以上になりました(4月末時点)。 誠にありがとうございます。本当はすべての書店様をご紹介したいところですが、紙面の都合上、 今回は3つのご展開例を掲載させていただきます。これからフェアへの参加をご検討される書店 様もいらっしゃるかと思いますが、その際のご参考にしていただけましたら幸いです。



弊社ホームページでは、フェアの概要と協賛書店様のお名前を随時更新しております。 こちらのURL(https://www.beret.co.jp/column/9782)か、右のQRコードから ご覧いただけますので、ぜひご確認くださいませ。







▶ 紀伊國屋書店セブンパークアリオ柏店

開催期間: 2024.2.15 ~ 3.15 実施点数: 30点150冊 開催場所:入り口付近のフェア台 売 上:106冊

▼担当者コメント

買われている方は30代くらいの男性が多い印象 でした。当店はファミリー層が多いので、家族で 来られたついでに自分の興味のある分野の本を見 て買っていかれたのかなと思います。



▶ 有隣堂アトレ目黒店

開催期間:2024.2.1 ~ 2.29 実施点数:40点260冊 開催場所:入り口付近のフェア台 売 上:102冊

▼担当者コメント

普段はなかなか平積みを作れない書籍でも思 わぬ売れ方をして、売れることの発掘や、再確 認ができますね。



▶ 未来屋書店八千代緑が丘店

開催期間:2024.1.2~2.15 実施点数:44点250冊

開催場所:入り口付近のフェア台 売上:85冊

▼担当者コメント

開催の時期と場所がよかったと思います。 年初 めでこれから勉強しようという需要に合っていまし